

さらに良質な大豆が できることを期待しながら 今年も栽培に励んでいきます

株大豆「リュウホウ」が 農林水産大臣賞を受賞

秋田市雄和で大豆や水稻を手掛けており、農業を始めて17年になります。大豆の面積は例年だと2ヘクタールほどですが、堤防の整備のため、昨年はおよそ60アールで栽培しました。大豆を作付けする圃場を2年ペースでローテーションしており、第143回秋田県種苗交換会で農林水産大臣賞を受賞した昨年は、圃場を変えて1年目の年でした。

徹底した排水対策と 防除を心掛ける

昨年を振り返ると、大豆の丈の

伸びがいいように感じました。圃場の排水が悪いと大豆が伸びなくなり、株に高さがないと豆も大きくなり、高くないため、普段から排水にはとても気を遣っていますね。昨年の圃場は他よりも土地の高さがある場所で、風通しがいいうえに黒ボク土と、水はけがよく良質な大豆ができる条件が揃っていると思いました。「雨が降ってもできるだけ早く乾くように」ということを念頭に置いて、圃場管理を行っています。

草対策も欠かさずに、雑草に負けないよう土寄せを丁寧に行いました。莢のなかで豆を食べるマメシクイガや葉を丸めてしまうハマキムシの被害、豆に色がついてしまう紫斑病などが発生すると台

無しになつてしまうので、病害虫にも油断できません。せつかく防除作業しても雨が降って流れてしまうと効果がなくなってしまうため、防除を行うタイミングに気を付けています。

今年さらさら大豆を

大豆の育ちはその圃場に作付けする1年目よりも2年目のほうが良好なときが多く、1年目の昨年より2年目の今年のほうがいい大豆ができるのではないかと期待しています。2年目の圃場には肥料を少し多めに施し、もちろん排水などにも気を付けて、今年も良質な大豆の栽培に励みたいと思います。

